

2015年10月21日

統計界で最高の栄誉とされる
2015年度大内賞受賞者決定



(メダル表面)



(メダル裏面)

1 大内賞の概要

大内賞は、戦後における我が国の統計の再建に政府の統計委員会委員長として尽力した大内兵衛博士の業績を記念して、1953年度に設けられたものである。我が国の統計の進歩に貢献した個人、団体等を顕彰するもので、統計界の最高栄誉とされており、2014年度までに304名・3団体が受賞している。

2 2015年度の大内賞受賞者

2015年9月17日(木)、大内賞受賞者を選考する大内賞委員会(委員長：西村清彦内閣府統計委員会委員長)は、今年度の大内賞を次の3氏に贈ることを決定した。

(受賞者名)

著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人

まつだ よしろう
松田 芳郎 氏 神奈川県：元一橋大学経済研究所教授

多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人(氏名50音順)

かみおうじ かつこ
神應寺 佳津子 氏 宮崎県：統計調査員

よねおか とみえ
米岡 富美恵 氏 熊本県：統計調査員

大内賞受賞者の表彰は、2015年11月19日(木)、総務省及び(公財)統計情報研究開発センターが開催する「第65回全国統計大会」(会場は、東京都渋谷区「国立オリンピック記念青少年総合センター」)において行う予定であり、大内賞委員会委員長から受賞者に対し、賞状のほか副賞として大内兵衛博士の横顔をデザインしたメダルが贈呈される。

3 受賞者の業績

- ・著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人

松田 芳郎 氏（神奈川県：元一橋大学経済研究所教授）

我が国政府による統計調査の在り方に関して多方面からその改善に向けて尽力した。とりわけ、研究代表者として文部科学省科学研究費重点研究を企画して、統計学界、経済学界の多くの研究者を動員した研究によって公的統計の二次利用の有用性を検証するという画期的な成果を残したことは、統計法の改正において二次利用の環境を大幅に改善することに直結し、我が国の統計の進歩に貢献した。

- ・多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

神應寺 佳津子 氏（宮崎県：統計調査員）

40年間にわたり、石油等消費構造統計調査(27回)、労働力調査(13回)、商業統計調査(12回)など187回の統計調査に従事し、正確で円滑な統計調査の実施に貢献したほか、調査員の経験を基に、指導員として調査員への適切な指導・助言に努めるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

米岡 富美恵 氏（熊本県：統計調査員）

42年間にわたり、家計調査、工業統計調査(10回)、商業統計調査(7回)、全国消費実態調査(3回)など86回の統計調査に従事し、中でも世帯の協力を得ることが困難とされる家計調査に42年間もの長きにわたり従事するとともに、的確な助言により後進の育成に努めるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

【参 考】

1 大内賞の受賞資格・受賞者数

- (1) 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人
- (2) 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人
- (3) 多年統計の普及につとめ、我が国の統計の進歩に貢献した人
- (4) 統計の実務又は普及を通じ、我が国の統計の進歩に顕著な貢献をした人又は団体等

・受賞資格別受賞者数：(1)40名,(2)250名,(3)16名,(4)1名・3団体

・所属分野別受賞者数：学識経験者 14名,府省関係 90名,地方公共団体関係 56名,統計調査員 56名、民間団体 78名、団体 3、その他 13名(調査対象農・漁家)

計 307名・3団体

2 大内賞委員会の構成

大内賞委員会は、内閣府統計委員会委員長を委員長とし、統計委員会の部会長(5名)により構成されている。

大内賞委員会事務局
公益財団法人 統計情報研究開発センター
担 当：湯井 要
電 話：03-3234-7478
E-mail：kanameyui@sinfonica.or.jp